

令和 3 年度 第 1 回学校関係者評価委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】令和 3 年 9 月 14 日（火） 17:00～18:00

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】委員 佐藤 和伸（佐藤代田接骨院 院長）

加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）

小泉 利幸（三進興産株式会社）

道狭 ひろ子（ひろこ整骨治療室 院長）

学校 奥田 久幸（校長）

岸本 光正（副校長）

木下 美聡（フロンティア推進部長）

伊藤 恵里（副学科長）

森下 友雄（副学科長）

中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）

鴨田 佳典（柔道整復学科教員）

事務局 吉田 智哉（事務部長代行）

小浜 悠樹 兼子 啓太郎 川上 英史 圓乗 佑太 伊藤 真紀（議事録）

以上 17 名

【欠席】委員 伊藤 述史（公益社団法人東京都柔道整復師会会長）

【議題】

(1) 学校経営重要指標について過去 5 年の推移と今年度の状況について

学校経営重要指標としている下記の項目について、過去 5 年の推移と今年度の取組の報告を行った。

1. 退学除籍率 2. 就職率 3. 定員充足率 4. 国試合格率

(2) 自己評価報告書について ※別紙報告書参照

自己評価報告書について、昨年度から評点の変化があった項目と令和 2 年度の新たな取り組みを中心に報告を行った。

### 【質疑応答】

(1) 学校経営業績重要指標についての報告

1. 退学除籍率について

(委員からの質問)

月次の推移のグラフにある数値は 1 年から 3 年までの総計か。

また、最も退学除籍率が高いのはどの学年か。

(学校からの回答)

1 年から 3 年までの総計である。例年昼間部 1 年生の退学率が高い傾向にあるが、担任の先生と中退率プロジェクトでも注力している。その効果もあって今年度現時点では 1 名のみとなっている。引き続き力を入れていきたい。

2. 就職率について

(委員からの質問)

グループ院、チェーン店に入職している学生の割合はどの程度か。

またそれらの院の強みを教えてほしい。

(学校からの回答)

本校としてグループ院・チェーン店の定義を明確にしているわけではないので、正確な割合の把握はできていない。本校は年 4 回業界説明会を実施しており、外部の就職説明会にも多くの学生が参加し就職を決めてきている。それを踏まえるとグループ院、チ

ェーン展開している院に決めている学生は多いと思われる。説明会の開催時間が平日の日中であることが多いため、個人院の先生方が参加しづらい時間設定になっている現状もある。学生の中には福利厚生を良い職場の指標の一つとして捉えている者も多くいる。会社形態ということが安心感を与えているのではないか。

#### 4. 国試合格率について

(委員からの意見)

夜間部の合格率が不安定になっているところが残念であり、心配である。夜間部の年齢層（30代以降）を見ると、一番忙しい年代でもあり、日中働きながら学ぶことになるので、時間の使い方や効果的な学習方法などもフォローしていただきたい。

また、思うように勉強が進まない学生にとって教員に寄り添ってもらえるというのは心強いし、よい取り組みだと思った。

(学校からのコメント)

思うように勉強が進まないことには理由があると考え、学生と一緒に解決できるようにこれからも寄り添っていきたい。

以上

令和 3 年度 第 2 回学校関係者評価委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】令和 4 年 2 月 22 日（火） 15:05～16:05

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】委員 佐藤 和伸（佐藤代田接骨院 院長）

小泉 利幸（三進興産株式会社）

道狭 ひろ子（ひろこ整骨治療室 院長）

学校 奥田 久幸（校長）

岸本 光正（副校長）

木下 美聡（フロンティア推進部長）

森下 友雄（副学科長）

伊藤 恵里（副学科長）

中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）

鴨田 佳典（柔道整復学科教員）

横山 靖（柔道整復学科教員）

事務局 吉田 智哉（事務部長代行）

小浜 悠樹 兼子 啓太郎 伊藤 真紀

川上 英史 圓乗 佑太 緒方 洋太郎（議事録）

以上 18 名

【欠席】委員 伊藤 述史（公益社団法人東京都柔道整復師会会長）

加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）

【議題】

（1）学校経営重要指標の今年度着地見込みについて

(2) 自己評価報告書について

(1) 学校経営業績重要指標についての報告

学校経営重要指標としている下記の4項目について、今年度の着地見込みの報告を行った。

- ① 退学除籍率 ② 就職率 ③ 定員充足率 ④ 国試合格率

① 退学除籍率について

目標よりも、8名多く除籍見込みであることが報告された。

本年度の取り組みポイントとして、下記4点が報告された。

1. 1, 2年生に対して、教務職員によるクラス副担任を新設
2. 学生情報の見える化、情報共有の強化
3. 中退予防に向けて、「兆し」の早期発見、早期対応

今後の課題として、下記3点が報告された。

1. 学生管理台帳の有効運用
2. 「兆し」の早期発見
3. 各学年・学部に合わせて対策

委員の先生より、下記のご意見を伺い、それぞれ学校より回答された。

- ・原因（勉強ができないのか、興味がないのか、等）の割合はどうか。

回答) 勉強ができないところからのモチベーションの低下がメイン。その他は、進路変更、家庭の事情、学生自身の問題、自身の喪失、将来への不安。未然に発見できなかったので、今後早期発見につなげていきたい。

- ・アンケートを取るのはいかがでしょうか。

回答) 学生の心理状況を把握するのもよいと思うし、ぜひ検討していきたい。

- ・1, 2 か月は特に心理面のケアが重要

回答) 根本的、心因的な部分は学習面だと思うので、学習面のフォローと日々のコミュニケーションをとっていく。特にGWや夏休みの後のケアを強化していく。

## ② 就職率について

目標と同じ着地見込みであることが報告された。

本年度の取り組みポイントとして、下記3点が報告された。

1. 対面とオンラインを併用した、臨床現場の現状を知るための機会提供
2. 「個別対応」の継続徹底 (求人紹介→履歴書作成・添削→面接対策まで)
3. 就職活動の動向の「見える化」と「共有」

今後の課題として、下記3点が報告された。

1. 就職活動に向けた意識誘導、早期の準備活動の促し
2. 業界の理解を促進するキャリアイベントの継続開催
3. 面談誘導順位の見直し (高卒生>社会人経験者 → 高卒生≒社会人経験者)
4. 特徴のある院の求人開拓、高年齢層の学生の就職先の開拓

委員の先生より、下記のご意見を伺い、それぞれ学校より回答された。

- ・就職先の内訳、接骨院以外はどうか。

回答) 昼6名、夜4名が個人院の他、ほとんどがチェーン店に就職。

- ・国試不合格の場合はどうなるか。

回答) 不合格の場合、待ってくれるところもあるが、資格取れなかったらだめというところもある。そのため、国試後は就職率は変わる可能性もある。

### ③ 定員充足率について

目標に対して、18名の未達見込みであることが報告された。

本年度の取り組みポイントとして、下記5点が報告された。

1. 高校生の獲得へのアプローチ
2. AO 歩留まり率の向上
3. 独立開業支援の訴求
4. 競争優位性の明確化
5. リアル来校させるための動画コンテンツの充実

今後の課題として、下記3点が報告された。

1. 高校生の早期アプローチによる入学者確保
2. 高校生の来校者数の向上
3. 競争優位性を高める学科の魅力作り

### ④ 国試合格率について

目標に対して、9名の未達見込みであることが報告された。

本年度の取り組みポイントとして、下記5点が報告された。

1. 個別の対応を「学生が変化するきっかけとなること」を意識
2. 国試直前合宿を早めることによる、学生の「変化」の前倒し
3. 時期に合わせた合格ラインの設定と弱点科目や学習の計画の検討・立案
4. 学習支援を必要とする学生への学びの場を立案・実行

5. 精神面にも寄添った学習サポートを展開（1,2年：SAの導入）

今後の課題として、下記6点が報告された。

1. 入学時からのサポート体制(SA導入)
2. カリキュラム、授業内容の見直し(非常勤講師とのコミュニケーション)
3. 定期試験のしくみ(モチベーションを低下させない評価)
4. 教員の意識・目標の明確化、コミュニケーションスキルの向上(熱意)
5. 資格取得モチベーションが低い学生への柔道整復師の魅力のプレゼン
6. 独自開発したスマホアプリの計画性をもった問題演習配信の継続

(2) 自己評価報告書についての報告

自己評価報告書において、前回よりもポイントを下げた下記3点について、ポイントを下げた要因に対しての今年度の取り組みと、今後の課題について報告を行った。

- ① 資格・免許取得率 ② 防災に対する組織体制 ③ 教育機関への情報提供

① 資格・免許取得率について

今年度の取り組みとして、下記7点が報告された。

1. 自ら主体的に 学ぶモチベーション を育てていく指導方法の確立
2. 社会人学生に対する学習支援の確立として、補講等のオンデマンド配信、  
質疑応答のきっかけづくり
3. 補填等への参加意欲の低い学生の意欲向上として、直前合宿の前倒し
4. 国試不合格となった卒業生へのサポートとして、現役生国試対策へのオンライン参加
5. 学生とのラポールの形成、こまめな声かけ
6. 就職先の早期内定獲得

## 7. スチューデントアシスタント (SA)制度の導入

今後の課題として、下記 5 点が報告された。

1. 国家試験対策となる問題作成力
2. PDCA を回しながら学生の状況に応じて舵がとれる体制づくり
3. 社会人の国試合格をフォローできるコンテンツづくり
4. SA、チューターとの連携
5. 教員の意識の変化

## ② 防災に対する組織体制について

今年度の取り組みとして、下記 2 点が報告された。

1. アクセス向上のための備蓄品の移動
2. 防災マニュアルの更新

今後の課題として、下記 2 点が報告された。

1. 安否確認の仕組みづくり
2. 学生の防災意識を高めるイベントの実施

委員の先生より、下記ご意見を伺った。

- ・セコムは便利なので、是非参考にして欲しい。

## ③ 教育機関への情報提供について

今年度の取り組みとして、下記 1 点が報告された。

1. 都立拝島高校にて行っている「看護医療ゼミ」にて出張授業を実施

今後の課題として、下記 3 点が報告された。

1. 学園全体の高校訪問部隊と連携を強化、実績校を中心に高校訪問を実施

2. 入学前から本校のスポーツトレーナー育成の教育活動に参加できる組織を  
発足

3. 入試広報グループ内に高校生担当をアサイン

委員の先生より、下記質問をいただき、回答をした。

・ヘルスケア講座の内容は

回答) 出前講座でケガ予防、ストレッチ、など、各学校の要望に対して行っている。

以上

令和 3 年度 第 1 回学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】令和 3 年 9 月 16 日（木） 15:00～16:00

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】委員 前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）

藤原 良次（本校校友会 会長、株式会社アールエフ 代表取締役社長）

鈴木 幸次郎（株式会社天心堂鍼灸院 院長）

松田 博公（元東洋鍼灸専門学校 副校長）

寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）

小林 潤一郎（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）

武内 潔（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）

学校 岸本 光正（副校長）

青木 春美（学科長）

中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）

天野 陽介（学生委員会・鍼灸学科教員）

西野 祐介（鍼灸学科教員）

事務局 吉田 智哉（事務部長代行）

小浜 悠樹 兼子 啓太郎 川上英史 圓乗佑太 伊藤真紀（議事録）

以上 18 名

【議題】

(1) 学校経営重要指標について過去 5 年の推移と今年度の状況について

学校経営重要指標としている下記の項目について、過去 5 年の推移と今年度の取組の報告を行った。

1. 退学除籍率 2. 就職率 3. 定員充足率 4. 国試合格率

(2) 自己評価報告書について ※別紙報告書参照

自己評価報告書について、昨年度から評点の変化があった項目と令和 2 年度の新たな取り組みを中心に報告を行った。

#### 【質疑応答】

(1) 学校経営業績重要指標についての報告

1. 退学除籍率について

(委員からの質問)

自身の経験では 2 年次が最も中だるみ、「まだ半分ある」といったものが重くのしかかる感覚があった。危ないところを持ち上げるということ、そしてその部分をあぶりだすためにも年次別の統計はとっているか？

(学校からの回答)

今回のグラフでは提示していないが、年次別の統計をとっている。

本校で特徴的なのは 1 年生の退学率が一番高い。努力はしてみたものの 2 期の試験結果が思ったよりも悪かったりすることが自身喪失につながり退学を検討するようになる。この傾向を全教職員が把握している。この時期には面談などでサポートすることになっている。2 年次の退学理由として多いのは「家族の介護」などであるが、担任に相談をしながら何とか退学せずに 3 年に進級できる学生もいる。

(委員からの意見)

入学の動機について、「本当に鍼灸がしくて入学したのか」それとも「他の大学を落ちたからとりあえず入学しようか」という方もいると思う。その際にいかに「鍼灸に恋する力」をつけていただくことが大事だと思っている。『AI に取って代われない手に職図

鑑』に鍼灸師の職業が掲載されており、具体的な未来のモデルケース（開業したらどうなるのかなど）が書かれている。1年生にはこれを読んでほしいと思っている。また、自分自身では機会があったときに「鍼灸師として成功するための[かきくけこ]」を学生に伝えている。

- ・鍼灸の効果に感動(かんどう)する…鍼を打ってなぜこんなに症状が改善するのだろうか。
- ・興味(きょうみ)をもつ…どういうふうに打ったら、どうなったのか。
- ・工夫(くふう)をする…実技授業や施術で工夫をする。
- ・健康(けんこう)である、健康を意識する
- ・鍼灸に恋(こい)をする…恋をすると様々なことが知りたくなり学習意欲が高まる。

1年次を乗り切れば2年、3年と続くと思うのでぜひ、本校の1年生に伝えてほしい。また、「鍼灸の効果に感動する」ということは日々の実技授業の中で学生に伝えていけることであると思う。そのためには教員自身も日々鍛錬し研究を続けなければならないと思う。

(学校からの回答)

大変感動した。ぜひ参考にさせていただきたい。また委員の先生の中には学生に向けて「灸愛行動」をしているというお話も伺っているが、そちらについてもご教示いただきたい。

(委員からの回答)

灸は初めて行う学生も多くいるため、どのような方法でどのような効果が発揮できるのかをはじめにしっかりと学生に伝えるようにしている。

## 2. 就職率について

(委員からの意見)

面接を受けにきた学生に「他社も検討、もしくは就職試験を受ける予定はあるか？」と

尋ねると7～8割の学生が「1社だけ」と答えている。一般的な就職活動では複数社の内定を取ることで、学生への就職指導において一点突破よりも複数の内定を取ったうえで自分に合ったところを選択するという方法も学生に提示していただければと思う。

また、中には2年次から就職活動を始める学生もいて、当社でも既に2名の内定が決まっている。早期から活動する＝「行動力」「計画力」があると見る会社もあり、学生にとっては有利に働くこともあると思う。

#### 4. 国試合格率について

(委員からの質問)

他校と比較すると10Ptほど下回っているが、その理由はなにか。

(学校からの回答)

以下3つ要因が考えられる。

##### ①全ての学生に公平な教育内容と機会を与えている

本校は(両学科とも)国試受験においても足切りと言われる行為はほぼ、行っていない。入学した全員が受験をして合格していただくという考えのもと行っている。成績が思わしくない学生には臨床実習を減らして国試対策をおこなったりする学校もあると聞いたことがあるが、本校はすべての授業を平等に受講していただく。成績が伸び悩んでいる学生には声をかけ、なるべくストレスのないように補講に参加していただくようにしている。

##### ②新卒高卒者向けの国試対策を含めた取り組みに甘いところがあった

全体の中で多数を占める社会人を意識したカリキュラムや魅力づくりを行ってきた部分もあり、本校の社会人学生については約90%の合格率で推移しているが、高校新卒学生への学習支援が今後の課題である。

##### ③国試担当教員に対する偏重

学校全体の取り組みというよりも「国試担当教員の熱意や努力」に頼る部分が大きかった。今までの国試担当教員は本当に一生懸命頑張ってきたが、本来であればそれぞれの取り組みを体系化し、学校全体で取り組み、学生自身も主体的に学ぶ環境を作らなければならない。そのバランスがうまくいっていない部分があった。

(委員からの意見)

3 点目については他校も同じ状態であると思う。ぜひ改善を期待している。

また、多くの専門学校では「足切り」を行い、数字の上ではよい合格率を宣伝している状態であるなか、日本医専の姿勢は大変すばらしいことである。また中退に対するフォロー等についても、個別にフォローするなど自分の授業を持ちながら教職員がよく頑張っていると頭が下がる思いである。国試対策においては難しい国試問題を解かせるよりも8.9割とれる問題を何度も解いていくことで成功体験ができると思う。また、そのことにより中退者削減にもつながると思うので、そのようなアプローチも検討していただきたい。

(学校からの回答)

大変参考になるご意見をたくさん頂戴し、ありがとうございました。引き続きよろしくお願ひいたします。

以上

令和 3 年度 第 2 回学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】令和 4 年 2 月 24 日（火） 15:05～16:05

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】委員 小林 潤一郎（東京都鍼灸師会 副会長）

鈴木 幸次郎（天心堂鍼灸院 院長）

武内 潔（東京都鍼灸師会 副会長）

寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）

藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）

前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）

松田 博公（日本伝統鍼灸学会）

学校 岸本 光正（副校長）

青木 春美（鍼灸学科長）

天野 陽介（カリキュラム編成委員会委員長・鍼灸学科教員）

中村 幹佑（教務委員会委員長・鍼灸学科員）

西野 祐介（鍼灸学科員）

事務局 吉田 智哉（事務部長代行）

山田 詩子 小浜 悠樹 兼子 啓太郎 伊藤 真紀

川上 英史 圓乗 佑太 緒方 洋太郎（議事録）

以上 20 名

【欠席】委員奥田 久幸（校長）

## 【議題】

- (1) 学校経営重要指標の今年度着地見込みについて
- (2) 自己評価報告書について

### (1) 学校経営業績重要指標についての報告

学校経営重要指標としている下記の4項目について、今年度の着地見込みの報告を行った。

- ② 退学除籍率
- ② 就職率
- ③ 定員充足率
- ④ 国試合格率

#### ① 退学除籍率について

目標に対して、達成見込みであることが報告された。

本年度の取り組みポイントとして、下記4点が報告された。

- 4. 1, 2年生に対して、教務職員によるクラス副担任を新設
- 5. 学生情報の見える化、情報共有の強化
- 6. 中退予防に向けて、「兆し」の早期発見、早期対応
- 7. ホームルームの新設

今後の課題として、下記2点が報告された。

- 4. 学生とのコミュニケーションの継続
- 5. 休学防止

委員の先生より、下記のご意見を伺い、学校より回答された。

- ・昼間部の退学見込みが多い原因は。

回答) 3学年合計、かつ、休学者を含んだ数字。3年生のみ、かつ、通学してい

た人からの退学者は2人。いずれも家庭の事情。

## ② 就職率について

目標に対して、1名マイナスでの着地見込みであることが報告された。

本年度の取り組みポイントとして、下記3点が報告された。

4. 対面とオンラインを併用した、臨床現場の現状を知るための機会提供
5. 効果的な「個別対応」の継続（求人紹介→履歴書作成・添削→面接対策まで）
6. 就職活動の動向の「見える化」と「共有」

今後の課題として、下記3点が報告された。

5. 業界の理解を促進するキャリアイベントの継続開催
6. 高年齢層の学生の就職先・研修先の開拓
7. 面談誘導順位の見直し（高卒生>社会人経験者 → 高卒生≒社会人経験者）

委員の先生より、下記のご意見を伺い、学校より回答された。

- ・夜間部 100%だが、就職先は希望通りのところか。

回答) 希望のほり・きゅう以外のところに就職する人も含まれる。ほり・きゅうを現職のプラス要因にしたい人やコロナ禍での収入面を懸念して異なる職を選んだ人などが含まれている。

## ③ 定員充足率について

目標に対して、プラス24名で達成見込みであることが報告された。

本年度の取り組みポイントとして、下記5点が報告された。

6. 高校生の獲得
7. AO 歩留まり率の向上
8. 独立開業支援の訴求
9. 競争優位性の明確化
10. リアル来校させるための動画コンテンツの充実

今後の課題として、下記 3 点が報告された。

4. 高校生の早期アプローチによる入学者確保
5. 独立開業支援のさらなる訴求
6. 競争優位性を高める学科の魅力作り

#### ④ 国試合格率について

目標に対して、プラス 11 名の達成見込みであることが報告された。

委員の先生より、下記のご意見を伺い、それぞれ学校より回答された。

- ・昼間部と夜間部で着地見込みに差があるのはなぜか。

回答) 昼間部で、伸びを予想していた人たちが伸びなかった。夜間部は自ら学べる人が多い。昼間部に対して十分なフォローが仕切れなかった。

- ・「自ら学ぶ」が当たり前だと思うが、そこができなかった理由は何か。

回答) 3 年生の自ら学ぶに任せすぎた感じもある。

各担任から個人個人には働きかけていたが、学校全体としての働きかけが不足していた。

#### (2) 自己評価報告書についての報告

自己評価報告書において、前回よりもポイントを下げた下記 2 点について、ポイン

トを下げた要因に対しての今年度の取り組みと、今後の課題について報告を行った。

① 資格・免許取得率 ② 防災に対する組織体制

① 資格・免許取得率について

今年度の取り組みとして、下記 2 点が報告された。

8. 「自ら学ぶ」ことを軸にした内容に方針転換
9. 学生の成長・合格力を定点観測する指標となるものを再確認

今後の課題として、下記 2 点が報告された。

6. 国試対策の目標の明瞭化、中長期的な計画の充実化
7. 支援対象者の把握、個々に見合った対応と学習の継続

② 防災に対する組織体制について

今年度の取り組みとして、下記 2 点が報告された。

3. アクセス向上のための備蓄品の移動
4. 防災マニュアルの更新

今後の課題として、下記 2 点が報告された。

3. 安否確認の仕組みづくり
4. 学生の防災意識を高めるイベントの実施

委員の先生より、下記のご意見を伺い、それぞれ学校より回答された。

・毛布と水を備蓄品として他のものがないのはなぜか。また、設置基準はあるか。

回答) 備蓄品としては、他にも乾パン等もある。有事の際に、学校で 3 日間過ごすことできるかどうか、ということが基準。学校の外にも避難場所を用意している。

- ・実際に他校で泊まり込みになったことがあり、その際は十分な備えがなく大変だったことがある。十分に準備をしてほしい。

回答) 例えば女性のデリケートな部分の対応等も含めて、引き続き準備していく。

#### 全体を通して

全体を通して、下記のご意見を伺い、回答がされた。

- ・改革をして、実際の変化はどうか。改革にはエネルギーが必要かと思うが、今後もぜひ進めて行ってほしい。教職員のはけ口として本会議をぜひ使用してほしい。

回答) 学生のクレーム、教員への悪口が少なくなったと感じる。全体的に風通しが良くなってきた。一方、コロナ禍ということもあり、対面でのコミュニケーションが少なくなったと感じる。

- ・LMS の活用状況はどうか。マイクロラーニング「5分以内の授業→LMS ですぐにテスト」というパターンが非常に重要。UMU、ShareWis がおすすめなので参考に。

回答) LMS は一部の教員がかなり活用している。LMS の業者による講習会も実施予定。来年度、オンデマンド授業を開始する予定である。

以上